

## 第3回青森県地域の子ども支援ネットワーク会議

日時：令和元12月12日（木）

13：30～15：30

場所：青森国際ホテル 3階 孔雀の間

（事務局）

ただいまから、第3回青森県地域の子ども支援ネットワーク会議を開催いたします。開会に当たりまして久保杉こどもみらい課長から御挨拶を申し上げます。

（久保杉こどもみらい課長）

本日は県内各地からお集まりいただきまして誠にありがとうございます。

さて、前回の会議においては、子どもの居場所づくりを支援するための手引書の作成を御提案したところですが、平成30年度に実施した青森県子どもの生活実態調査の結果と前回の委員の皆さまからの御意見等を踏まえまして、関係機関が地域の子ども支援に関する情報を共有し、必要な支援が提供できるようにするため支援制度や相談窓口、子どもの居場所づくりなどの情報を掲載する地域の子ども支援ガイドブックを作成したいと考えており、本日はそのガイドブックの案につきまして御協議いただくこととしております。

委員の皆さまにはそれぞれのお立場から忌憚のない御意見をいただきますようお願い申し上げます。御挨拶といたします。

（事務局）

会議設置要綱の規定によりまして、座長が会議の議長ということになっておりますので、ここからの進行は座長にお願いします。

（吉田座長）

いよいよ最後の委員会となりましたので、よりよいガイドブックになりますよう、皆さまから忌憚のない御意見を伺いながら進めてまいりたいと思いますのでよろしく願いいたします。

では、次第に従いまして、協議事項「あおもりけん地域の子どもの支援ガイドブック（案）」について、事務局から説明をお願いします。

【事務局：資料1～2より説明】

（吉田座長）

皆さまから御質問はありますでしょうか。

私からですが、まずは表紙が大事ではないかと思います。このガイドブックを手にとった方に、自分に関係のあることだから開いてみようと思っただけのようなものにする必要があると思います。具体的に、近くにこんな家庭ありませんか、あるいはこんな子どもいませんか、というような呼びかけも大切かなというふうに思うのですが、ここに挙げられている、最近朝食を食べていない子ど

もがいる、お風呂に入っていないようだし、同じ服ばかり着ている、県内でもこういう事例もあると聞いていますので、とても大切な問いかけではあると思う一方で、子どもの貧困は7人に1人とされていて、実は見た目ではなかなかわからない、でも困窮している家庭の子どもは多いのではないのでしょうか。例えば学校の先生方が、学校の入金がたびたび遅れて、どうも困っているのではないかというような、そういう時にもこのガイドブックを開いてもらえるようにすることも大切なのかなと思います。

そうしたことを念頭に置きながら、まずは全体について、最後に表紙についての御意見を伺ってきたいと思います。全体の構成について御意見はございませんか。

(葛西委員)

全体の構成というわけではありませんが、事務局から10ページの「教育」と「福祉」の連携の事例があまりないとの説明がありましたが、吉田先生がずっとやられている教育と福祉の連携のプロジェクトはぜひ載せてほしいと思います。

また、文部科学省系と厚生労働省系の事業と似たような事業がありますが、例えば放課後児童クラブはあるけれども放課後子ども教室が掲載されていないため両方掲載していただきたい、また、学習支援については子どもの居場所のページに民間が実施しているものしか載っていないので、行政で実施している事業も載せるべきかと思います。学校の先生は、教育の支援のページが一番関心を持って見ると思うので、市町村でやっている学習支援などを教育の支援のページに載せたらよいと思います。

加えて、学習支援と言えるかどうかかわからないけれども「適応指導教室」がないので、載せるべきではないかと思います。

(吉田座長)

葛西委員からいただいた学習支援等の御意見については、それぞれ重要なものと思いますので取り入れていただければと思います。

次に生活実態調査のページについてですが、40人学級の場合は困窮家庭の子どもがクラスに5人というのはものすごく大切な情報だと思います。こうしたメッセージ性の強い情報は、このページに限らず、全ページにおいて吹き出しをつけて目立つようにして掲載したほうがよいと思います。

次に子育て支援のページについて、情報が掲載されている三沢市の池田委員から御発言いただけますでしょうか。

(池田委員)

3ページの要保護児童対策地域協議会ということで三沢市のネットワークの事例が載っているんですけども、体制がまたちょっと変わって、協議会の実務者会議のメンバーに警察とかスクールソーシャルワーカーさんが入っていますので追記したいと思います。また、生活困窮家庭を見ていきますと、障害を持っているお子さんがいることがあるのですが、必要な手当をもらえていなかったりするケースがあり、様々な制度があるのにも関わらず知らない方が多いということは日頃から感じています。よって、ネットワークの中に障害福祉課と生活福祉課（福祉事務所）も追記させていただければと思います。

また、2ページに児童手当が載っていますが、特別児童扶養手当も載せていただきたいです。

(吉田座長)

今の御意見も事務局の方で取り入れていただければと思います。

(堀合委員)

今日はスクールソーシャルワーカーが欠席となったため、事前に当事務所にいる3名のスクールソーシャルワーカーと本日の資料について意見交換してきましたのですが、話題になったのは、やはり表紙についてで、例えば代表的なところで三つ事例がありますが、このお子さんだったらこのページへ、あるいはこの機関へどうぞ、というふうなわかりやすい見出しがあるとか、中味についても吹き出しをつけてインパクトがあるようなものにするとう活用性、利便性が図られるのではないかという話になりました。

また、ガイドブックを作ることがゴールではなく、これで子どもたちが救われるようにするためにどう活用していくかということが大切だと思います。

(吉田座長)

スクールソーシャルワーカーの方を交えた意見交換を踏まえての御発言ですが、本当にそのとおりだと私も思います。

では次に教育支援について、スクールソーシャルワーカーについての事例紹介をということで、堀合委員いかがでしょうか。

(堀合委員)

三八教育事務所は三戸郡を中心に活動を行っておりますが、スクールソーシャルワーカーの派遣依頼の数は、昨年度よりも非常に多くなっています。周知と活用がなされてきていると思いますし、困り感のある児童生徒、保護者がいる、そして学校側も悩んでいるということになるのではないかと思います。

事例で多い案件は発達障害系のもの、特別な支援を要する児童生徒に対する困り感が増えてきております。また不登校、家庭環境、いじめ事案、友人関係、教師側とのコミュニケーションのあり方、問題行動、非行関係、あるいはまた心身の状態、健康に関わるもの、肢体不自由に関する問題等多岐に渡っております。

そうした中、貧困問題に関しては、例えば家庭環境を見ていくに当たって、アセスメント、見立てをしている中で実は貧困家庭なのかなとか、あるいはちょっと困っているのではないかなとか見えてくるケースもございますので、いろんな要因が重なり合っているといいですか、様々な要因が複合的に絡んでいるということになります。

(以下、具体的な事例紹介が行われたが、個人的な話となるため内容は非公開とする)

(吉田座長)

様々な事例にスクールソーシャルワーカーが関わることで、いろんな機関につないで支援が行われているということはぜひ皆さんに知っていただきたいところです。スクールソーシャルワーカーが入

り始めてそんなに年数が経っていないため、県内全体に、その存在意義、役割、それによってどんな支援ができるのかというところがまだ伝わっていないと思われますので、ぜひ具体的な事例紹介を載せて周知していただけたらと思います。

その他に、教育支援については、県の調査では、就学援助がなかなか使われていないケースがあるという結果が出ていますので、例えば学校の先生方や事務職員の方でも積極的に周知をしてくださいということが伝わるようなメッセージがほしいかなと思います。

次に生活の支援について、ハローワークに関連する部分で高橋委員、いかがでしょうか。

(高橋委員)

マザーズコーナーについて掲載されていますが、これはあくまでも場所の提供です。支援を掲載するのであれば職業訓練です。訓練を受講しながら月 10 万円とかを受給できるという制度で、この制度を利用しながらスキルアップしたり、違う技能を身につけたりして就職し、正規職員となるための制度ですので、そちらを掲載していただきたいと思います。

(吉田座長 9)

次の子どもの居場所のページについて、藤林委員いかがでしょうか。

(藤林委員)

ページをめくってもらえるかどうかは、デザインがとても大事だと思いますし、吹き出しをつけるということも大事だと思います。

ホームページのアドレスが載っていますが、QRコードも載せるべきではないでしょうか。それが無理なら〇〇で検索とし、ただ、その場合は Google で検索したらトップだけど、Yahoo!で検索したら3番目に出てくるのではよくないので、QRコードを載せた方がよいと思います。

9ページの子ども食堂の説明にある「法律上の定義はありませんが～」は無い方がすっきりすると思います。

「憩いの広場ここまる」の情報を載せていただけることは大変ありがたく思います。

(吉田座長)

子どもの居場所づくりコーディネーターについて説明ですが、養成したという県の視点ではなく、どうすればコーディネーターを利用できるかという利用者側の視点での書きぶりにした方がよいと思います。

最後のページの子ども支援の「教育」と「福祉」の連携の事例について、先程葛西委員から、弘前大学子どもの貧困プロジェクトも載せたらどうかという御提案をいただきました。ありがとうございます。

少し紹介しますと、このプロジェクトは、弘前大学の複数の教員が中心となり、教育と福祉、地域と行政の壁を越えてみんなで子どもの貧困を考えることを目的として 2017 年度に立ち上げたプロジェクトです。弘前市内及び青森市内で学習会やシンポジウムを開催し、教育関係者と福祉関係者がつながる場づくりを行っているものです。

その他に連携事例として載せてはどうかという事例について御意見ございますでしょうか。ないよ

うでしたら、連携事例をどうするかは、事務局に検討していただくということによろしいでしょうか。  
では、表紙の検討に戻りたいと思います。

(藤林委員)

最初に吉田先生がおっしゃった、子どもの生活実態調査結果によって見えてきたところを出すというのがとても大事だと思います。ひとり親家庭サポートガイドブックは、こういうことで困っていますという事例がないのですが、今回のガイドブックでは事例を載せるということで、どれだけイメージしやすいものになるのかと思うと本当にうれしく思います。

それから、インパクトのある表紙にしたいのであれば、例えば、書店で売られている本で考えた場合、「あおもりけん地域の子ども支援ガイドブック」というのは本の名前で、「近くにいる「気になる」子どもとその保護者を行政が民間で行っている支援に結び付けるためのガイドブックです。」は本の趣旨で、本でいう帯ですよ。この帯となる部分のフォントを大きくしてバーンと打ち出せば見やすいし、こういう冊子かとわかりやすいのではと思います。

(葛西委員)

このガイドブックが、誰が活用するためのものであるかを表紙に書いておく方がよいように思います。

ホームページに公開するのであれば保護者でも誰でも見る可能性がありますので、子ども支援に関わっている人たちが活用するために作成したものだということを明記したほうがよいと思います。

(吉田座長)

いろいろと意見が出されましたが、事務局の方で皆様の御意見を反映させながらガイドブックの最終版を作成していただくということで、この後の作業は事務局に一任するというところによろしいでしょうか。この場では思いつかなかったけれども、後で思いついたことがあれば、事務局の方へ御連絡いただければと思います。

では、次の情報交換とさせていただきます。事務局から最近の国の動向について、青森県社会福祉協議会の葛西委員から子ども居場所づくりの事業について情報提供があるとのことですのでお願いします。

**【事務局：参考資料により説明】**

**【葛西委員：子どもの居場所づくりコーディネーター養成講座チラシにより説明】**

(吉田座長)

このほかに、情報提供がある方はいらっしゃいませんか。

では、そろそろ時間となりましたので、取りまとめをさせていただきたいと思います。

このネットワーク会議の開催は、本日が最後となります。貧困など様々な課題を抱える子どもたちへの支援に関わる関係機関が集まって、意見交換を行ったということで、非常に貴重な場であったと感じております。皆様の御協力に心より感謝します。

最終的には「地域の子ども支援ガイドブック」を作成し配布するというところで、それが本ネットワ

ーク会議の成果報告ということになるのかなと思っております。今後このガイドブックが関係機関に配布されて、地域の子どもの支援の一助になることを期待しております。

先ほど話しましたプロジェクトの活動なんかを通してしみじみ思うことなんですけども、やはりのりしろというのが必要だなと思います。子ども支援という立方体を組み上げるにあたって、それぞれの面で専門性のある方がいらっしゃるんだけど、それが協力し合って、一つの立方体になるためにはのりしろがないとくっつかないんです。そういうのりしろのところの情報というのを、このガイドブックが果たしてくれればと心から思っております。

初めて作るものになるので、もしかしたら、まだまだ改善の余地があるかもしれませんが、これを第一歩として、青森県の子どもの支援が地域、行政、福祉、教育の壁を越えて、関係者が手を取り合っできるものになっていったらいいなというふうに心より願っております。このネットワーク会議での出会いをきっかけに、関係機関の皆様とは、さらに今後、関係が深まっていければと願っております。

本当に御協力ありがとうございました。それでは、本日の議事はこれで終了いたします。最後に事務局よりお願いします。

(事務局)

吉田先生、ありがとうございました。また、委員の皆様もたくさんの御意見をいただきまして、ありがとうございました。委員会を終えるにあたりまして、久保杉課長からあいさつを申し上げます。

(久保杉こどもみらい課長)

本日は長時間に渡りまして、御議論いただきまして誠にありがとうございました。

また、これまで3回に渡ってネットワーク会議に御出席いただき、様々な御意見をいただきました。重ねて御礼申し上げます。

今後も関係機関の皆様から御意見をいただきながら、本県の子どもの貧困対策に関する事業を進めていきたいと考えておりますので、引き続き御協力をお願い申し上げます。

本日は誠にありがとうございました。

(事務局)

以上をもちまして、第3回青森県地域の子ども支援ネットワーク会議を閉会いたします。

本日はありがとうございました。